

第2章 「めざす子どもの姿」を実現するための重点

重点目標⑤ 就学前教育の充実

生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期であることから、「生きる力」「共に生きる力」の基礎となる力を育成します。



1 遊びを通しての「学び」の充実

◆ ねらい

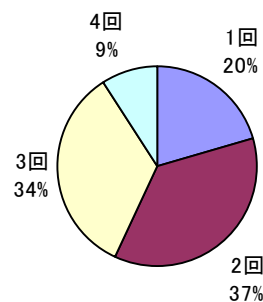
幼児の自発性、好奇心などを重視した遊びや体験を通し、人格形成の基礎となる教育を展開し、「生きる力」「共に生きる力」の基礎を育成します。

取組指標	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	実績値 (平成26年度)	目標値 (平成27年度)
遊びを通した「学び」の充実に係る公開保育の実施回数	100%の園が1回以上実施	100%の園が1回以上実施	100%の園が1回以上実施	各園1回以上

◆ 現状と課題

幼稚園教育は、「環境を通して行う教育」であるという点において、教職員の担う役割は重要です。そこで、幼児の遊びを充実させるため、全園で、年齢や発達課題に応じた環境構成を行い、幼児の特性に応じた指導の工夫を行っています。

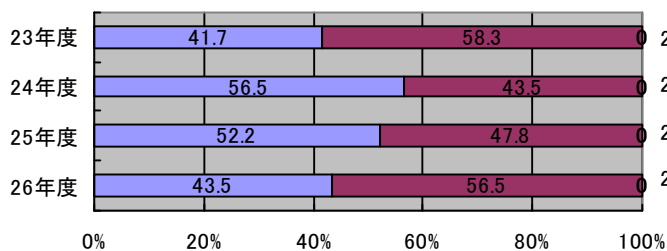
学年別、クラス別で保育公開を1回以上行い、教職員が学び合える場をつくっています。公開保育を行うことは、かかわりや環境構成について見直すよい機会になり、昨年度より回数を増やしている園が多くみられました。事後の討議においても、幼児期にふさわしい環境、遊びを通しての学びなどの研修を深め、実際の指導に生かしていくようにしています。



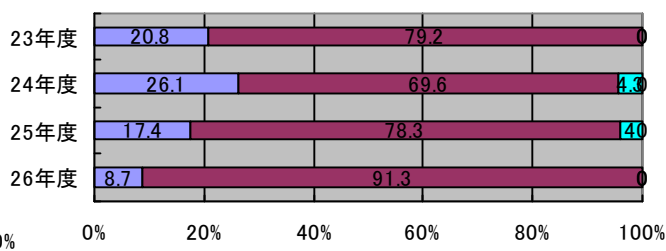
公開保育の実施回数 (26年度)

平成26年度の公立幼稚園教職員のアンケート結果(23園)

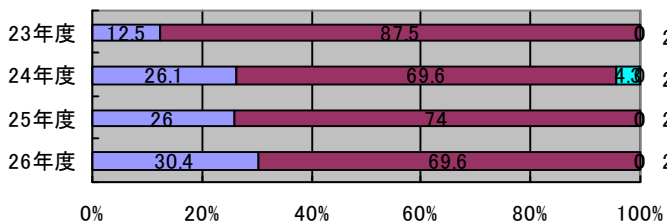
1.一人一人の幼児の特性に応じた指導の工夫を行ったか



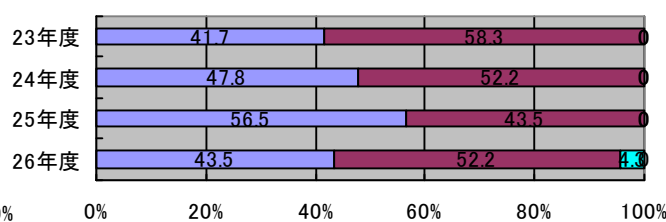
2.幼児期にふさわしい生活を展開できる環境構成を行ったか



3.道徳性の芽生えを培うための指導を行ったか



4.健康・体力向上のための指導を行ったか



■ 十分 ■ おおむね十分 ■ やや不十分 ■ 不十分

- 教職員アンケート結果から、ほとんどの教職員が「一人一人に応じた指導」を心がけ、幼児の特性に応じた指導の工夫を行っている結果がみられました。「環境構成の工夫」については、その重要性を感じてはいるものの「十分」という回答が昨年度より大幅に減った一方で、「やや不十分」という回答はなくなりました。今後も教職員が幼児にとって重要な環境の一つであることを認識して、教育活動を展開することが重要です。「道徳性の芽生えの指導」については、継続的に取組を進めている状況がみられました。「健康・体力の向上」については、「やや不十分」が4.3%あり、子どもたちの体を健やかに育む観点から、今後も進んで運動に親しみ体力の向上を図っていく必要があります。

◆ 今後の方向性

- 一人一人の幼児の特性に応じた指導や、幼児にふさわしい環境構成の工夫により、園での活動が幼児の発達にとって、より一層意味のあるものにしていくことが必要です。教職員が幼児の成長のために共通認識し、具体的な課題をもって教育実践に取り組みます。
- 道徳性や規範意識を高めるためには、家庭と共に進めていく教育が必要になってきます。集団生活のなかでの具体的な場面を通しての指導はもちろんのこと、家庭との連携を深めながら、教育に取り組んでいく必要があります。
- 健康で安全な生活習慣や態度の育成を目指し、戸外遊びや運動遊びの充実など、心身共にたくましく育つよう取組を継続的に進めます。
- 教職員の専門性を一層高めるとともに、遊びの中で幼児同士がかかわりあう機会を通じて、集団の中でルールを学んだり、自分の思いを出したりして、幼児が遊びの充実感を味わうことができるよう取り組みます。
- 幼稚園教育をさらに充実させるとともに、保育園や小学校との連携を深めて、円滑な接続が図れるよう、段差のない教育の取組を進めます。



◆ 主な取組状況

- 幼稚園での特別支援教育の取組について
集団の中で一人一人に応じた指導や支援ができるよう、関係機関と連携しながら取り組んでいます。また、乳幼児期から小学校まで一貫した教育的支援を行うため、相談支援ファイルを有効に活用しています。
あわせて、特別支援教育に関する研修を計画的に実施し、教職員の専門性や指導力の向上を図っています。

2 子育て支援の充実

◆ ねらい

安心して子育てができるよう家庭と地域との連携を深め、幼児の生活を創造する子育て支援の場を設定します。

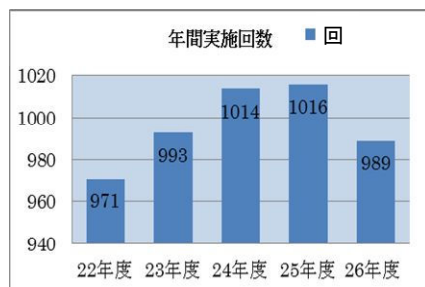
取組指標	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	実績値 (平成26年度)	目標値 (平成27年度)
園ホームページによる教育活動や子育てに関する情報提供の頻度	週1回以上の園 13園 (56%)	週1回以上の園 17園 (74%)	週1回以上の園 13園 (56%)	週1回以上

◆ 現状と課題

園の生活や地域との連携の中で、園児の様子を中心に教育目標、教育活動、子育て支援（遊び会）情報など各園のホームページで発信しています。週1回を目標とした定期的な発信と、わかりやすく、見やすい内容の充実に努めています。しかし、情報提供の頻度については、週1回以上の園が13園となり、時期によりやや偏りが見られました。今後も家庭、地域との連携を意識した取組の継続が必要です。

○ 平成26年度公立幼稚園における子育て支援（遊び会）の状況

- 年間の実施回数は述べ989回、年間参加者数（組）は述べ13,190組となっています。参加者アンケート（平成27年2月実施）より「お子さんが喜ぶことは何ですか」の問いに「遊具で遊ぶ」「友だちと遊ぶ」の順に多く、子どもの遊び場、子ども同士の交流の場として「遊び会」を楽しみにしていることが伺えます。
- 相談件数については、年間805件の相談があり、年間参加数（組）の6.1%の利用にとどまりました。参加者アンケート（平成27年2月実施）より「相談したいと思うことがあると答えた方」の相談内容については、子どもの生活、発育（成長、発達）、入園・入所に関する事など多様にわたっています。子育てに関する様々な相談や援助を実施していく必要があります。
- 各園の活動指導員については、実技を取り入れた保育内容、情報交換、子育て相談事業などについての研修会を年間2回実施し、資質向上に努めました。



◆ 今後の方向性

- 各幼稚園では園での取組や子育ての情報をホームページ、便りなどで家庭、地域

重点⑤ 就学前教育の充実

へ積極的に発信し、連携を大切にした子育てのセンター的役割を果たしていきます。

- 幼稚園施設の利点を生かし、子どもが安心して遊べる場所、子どもと保護者の触れ合いや交流の場所として「遊び会」の内容、実施回数などの充実を図ります。
- 保護者が子育ての喜びや楽しさを感じられる子育て支援としての取組をすすめます。そのため、気軽に子育ての相談ができ、多様な相談内容に応じていける職員、指導員の資質向上に努めます。

◆ 主な取組状況

- 子育て支援の拡充について
昨年度に引き続き、「幼稚園ウィーク」と称し、北部、中部、南部の地域を拡大した「遊び会」を夏季に実施しました。季節の遊び、触れ合い遊び、在園児との交流など各園で内容を工夫し、子ども、保護者がともに楽しめる場となりました。
- 市民活動団体が行う子育て支援事業について
地域住民が主体となって子育て支援運営委員会を設置し、地域住民の民主的な運営により子育て支援活動を行っています。現在、下野地区と富洲原地区で実施されています。

平成26年度公立各幼稚園における子育て支援（遊び会）の状況

	幼稚園名	実施曜日と回数				時間	年間実施回数(回)	年間参加数(組)	年間相談件数	登録者数(組)
		全体	3歳児							
1	四日市	毎週(水)	月4回	毎月第2(金)	月1回	10:00~11:30	43	618	62	108
2	橋北	毎週(木)	月4回	毎月第2・4(火)	月2回	10:00~11:30	49	334	40	27
3	富田	毎週(水)	月3~4回	毎週(月)	月2~4回	10:00~11:30	52	832	34	108
4	海蔵	毎週(木)	月4回	毎月第2・4(火)	月2回	10:00~11:30	40	548	57	103
5	納屋	毎週(火)	月4回			10:00~11:30	36	212	0	45
6	泊山	毎週(水)	月3回	11月、2月	年2回	9:30~11:00	27	829	6	146
7	内部	毎週(木)	月3~5回	毎週(金)	月1~3回	10:00~11:30	42	993	34	120
8	川島	毎週(水)	月3~5回	毎月第2(火)	月1回	10:00~11:30	39	725	52	93
9	神前	毎週(水)	月4回	毎週(木)	月4回	10:00~11:30	73	597	39	42
10	三重	毎週(木)	月3~4回	毎月(月)	月1回	10:00~11:30	43	664	47	64
11	保々	毎週(金)	月4回	2月~3月	年3回	10:00~11:30	55	710	35	73
12	下野	毎週(月)	月4回			10:00~11:30	32	405	17	71
13	羽津	毎週(金)	月3回	第2(水)最終(金)	月2回	10:00~11:30	46	1067	48	113
14	富洲原	毎週(火)	月4回			10:00~11:30	38	346	13	45
15	高花平	毎週(水)	月4回	毎月(金)	月2回	10:00~11:30	50	439	9	46
16	大矢知	毎週(金)	月3~4回			10:00~11:30	33	497	13	79
17	八郷中央	毎週(木)	月4回	毎月(火)	月2回	10:00~12:00	46	427	48	95
18	桜	毎週(水)	月3~4回	3月	年1回	10:00~11:30	37	538	9	70
19	常磐中央	毎週(火)	月3~4回	2月	年1回	10:00~11:30	28	876	168	144
20	塩浜	毎週(木)	月4~5回			9:30~11:30	44	240	20	68
21	笹川中央	毎週(金)	月4回			10:00~11:30	40	355	3	46
22	三重西	毎週(水)	月4回	毎月第1・3(月)	月2回	10:00~11:30	42	496	21	56
23	楠北	毎週(水)	月4回	毎月第1(金)	月1回	9:30~11:30	18	153	19	27
24	楠南	毎週(木)	月4回			9:30~11:30	36	289	11	45
平成26年度 合計							989	13,190	805	1834

3 幼保小の連携の充実

◆ ねらい

学びの一体化の一層の推進のため、幼稚園と保育園、就学前教育と小学校教育の連携及びその充実を図ります。

取組指標	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	実績値 (平成26年度)	目標値 (平成27年度)
スタートカリキュラムの活用に関する担当者研修会の実施回数	年2回実施	年2回実施	年2回実施	年2回実施

◆ 現状と課題

就学前から中学校卒業までの子どもの育ちをふまえ、学びのあり方に目を向けた教育実践が展開できるよう、学びの一体化研修における連携の充実が進められています。就学前と小学校入学時の滑らかな接続をめざした交流の継続および充実を図るとともに、幼保小協働で指導したことが小・中の学びへ生かされるよう、各中学校区の学びの一体化研修等で還流し、子どもたちの変容や効果をとらえていくことが重要です。

◆ 今後の方向性

- 各校区において「スタートカリキュラム四日市市版」を活用し、校区の特徴を生かした幼保小協働の実践を積極的に進めます。
- 学びの一体化研修会の場などで、「つながりシート」を持ちより、各校園での学びを共有することで、就学前教育と小学校教育との円滑な接続に活かします。
- 就学前教育における学びを生かした具体的な連携について、その意義を校区で共有し、各校区における連携プランが確立されるよう進めていきます。相互に指導のねらい・内容を深く理解し合う具体的な取組を通して、園では小学校以降の生活や学習の基盤を育成し、小学校では新入児が安心して学べる環境づくりや指導につなげていきます。

スタートカリキュラム 四日市版



◆ 主な取組状況

○ 幼保及び小学校との合同研修の充実

小・中学校間で実施される授業公開等に加え、幼稚園や保育園の保育公開等においても校区の教職員交流が進みました。保育の様子や学習指導の様子を実際に見合うことを通して、学びの連続性について検討する校区が増えました。本年度も校区内に幼稚園や保育園がある全ての中学校区において、幼保小連携に係る協議が行われました。

保育園・幼稚園合同研修会においては、小学校の視点から見た保幼小の接続の課題について提案した後、「就学前保育・教育において大切にしたいこと」について話し合いを持ちました。また、第3回の担当者研修会では、幼稚園、保育園、小学校、中学校の担当者がそろった場において、改めて幼保小連携の必要性が高まってきた背景について確認し、幼児期、小学校それぞれの接続期に考えたい取組について具体的にとらえる研修をしました。

○ 幼保小が連携した教育活動の実践

幼保小の円滑な接続を意識した教育活動として、小学校生活科や総合的な学習の時間の取組に園児を招待したり、入学前には小学校体験や給食体験が行われたりしています。幼保小連携部会では、幼稚園年長児と小学校5年生が交流する幼小合同の実践を行い、平成26年度の実践例として「スタートカリキュラム四日市版」に追加しました。



[ふれあいを大切にした幼小交流]

重点⑤ 就学前教育の充実

○ 幼保小連携スタートカリキュラム四日市市版の作成・実施

小1プロブレムや中1ギャップと言われている課題がクローズアップされる中、就学前の子どもの育ちをふまえ、小学校生活のスタート時期における学びのあり方に目を向けた教育実践が必要とされています。平成25年度に提案したスタートカリキュラム（案）については、今年度実践するなかで改善点を修正し、完成版を各小中学校および市内公立幼稚園・保育園へ配付しました。

「つながりシート」は、幼稚園や保育園と小学校の間で行われる情報交換や指導の引継ぎ等で、子どもの学びや成長が校種間で滑らかに連続することをねらっています。平成26年度は「つながりシート」を活用し、就学前の学びをよく理解し、次年度への指導に役立てるために具体的な話し合いを行う校区が増えました。また、「つながりシート」見直しを図り、項目をしぼったものに改善しました。平成27年度には、より使いやすくなったものを使用できるようになります。



[連携部会におけるスタートカリキュラムの検討]